

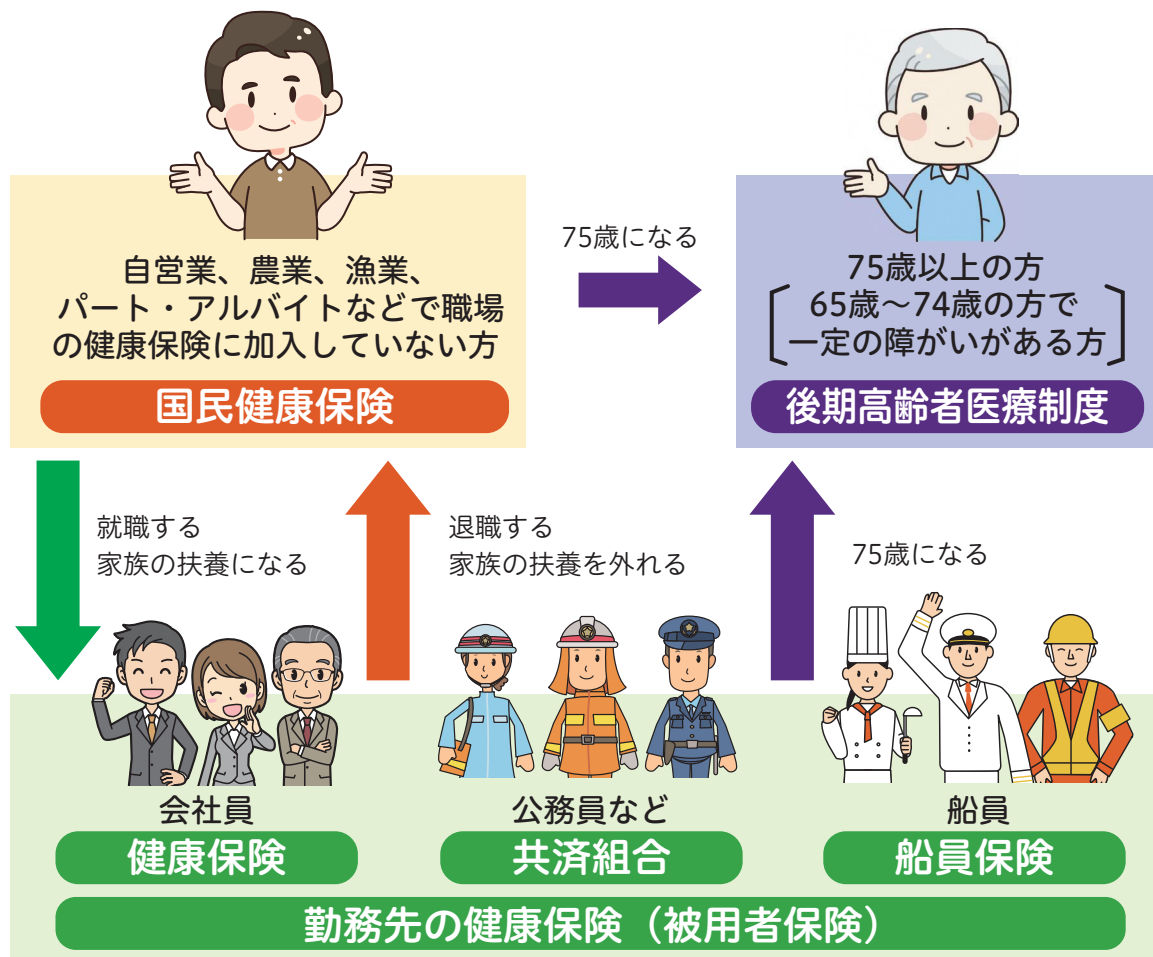
5 知っておきたい医療保険制度

日本では、すべての国民が公的医療保険制度に加入し、保険料を負担しています。この「国民皆保険制度」によって、誰もがどの医療機関でも医療費の一部を負担することで医療を受けることができます。

医療保険の種類

医療保険はいくつか種類があります。それぞれが運営団体(保険者)となり、保険料(税)の徴収や窓口自己負担分以外の医療費の支払いをしています。

保険の種類が異なっても、医療機関での窓口負担の割合など、受けられるサービスはほぼ同じです。(国民健康保険の制度改正により内容が変更になる場合があります。)



※扶養家族は勤務者の保険に加入

医療機関窓口での自己負担割合

年齢や所得状況などにより、自己負担割合が異なります。

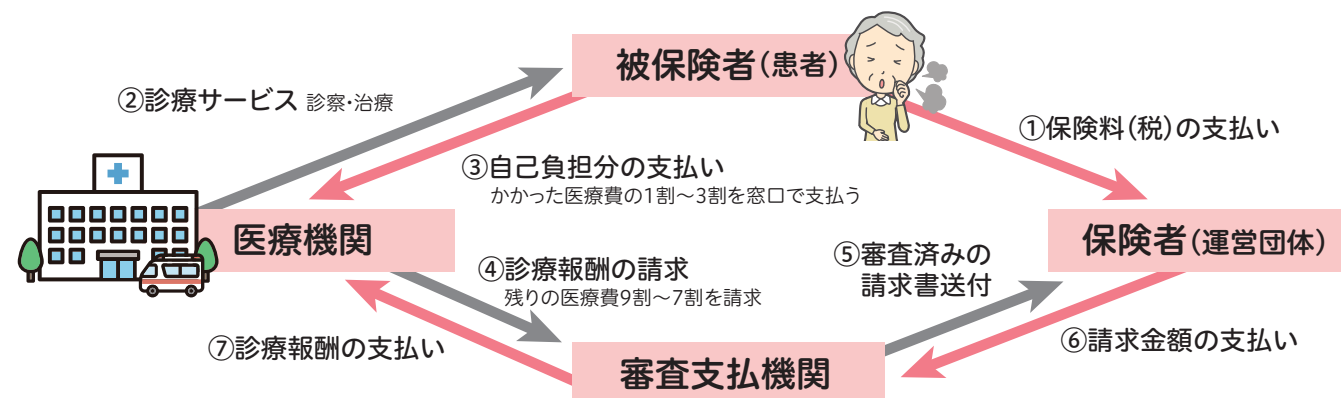


※国民健康保険と後期高齢者医療制度について、詳しくは柏崎市国保医療課(☎0257-21-2210)、刈羽村福祉保健課(☎0257-45-3916)へ

医療保険制度のしくみ

国民の医療費総額は45兆359億円(令和3年度)でした。そのうち、みなさんが医療機関に支払う窓口負担額は、医療費全体の1割～3割です。残りの多くは、公費(税金)、雇用主負担(企業)および保険加入者が負担する保険料(税)などで賄われています。

医療費負担のイメージ



医療費の適正化

医療費はなぜ増えるのでしょうか?

高齢者人口の増加や医療の高度化、高額な医薬品の開発などにより医療費は年々増加傾向にあります。また、高血圧・糖尿病などの生活習慣病や長期にわたる治療が必要な慢性疾患患者が増えてきていることもその原因であると考えられます。

医療費を節約するにはどのようなことができるのでしょうか?

日頃から健康管理に努め、病気の予防を心がけるとともに、医療機関のかかり方について見直す機会を持ちましょう。

生活習慣病の予防

健診などによる
病気の早期発見・
早期治療

ジェネリック
医薬品の活用
(P15参照)

かかりつけ医を
持つ
(P12参照)

適正な医療費に向けて

安易な「はしご受診」「重複受診」はやめましょう。

「診断結果に納得がいかない」、「処方された薬が効いていない気がする」など同じ病気で複数の医療機関にかかることは医療費の増加につながるだけでなく、薬の重複使用や飲み合わせによっては身体に悪影響を及ぼします。

診療内容や処方された薬に疑問がある場合には、かかりつけ医やかかりつけ薬局に相談しましょう。

定期的に健診・検診を受けましょう。

日本人の死因の約5割は、がんや心臓病、脳卒中などの生活習慣病です。生活習慣病は自覚症状がないことが多いため、生活習慣病の予防と病気の早期発見・治療には、定期的な「特定健診」や「がん検診」の受診が重要です。

“自分にしかできないヘルスチェック”をまずは受けてみませんか。